

難聴者・中途失聴者 アンケート結果報告

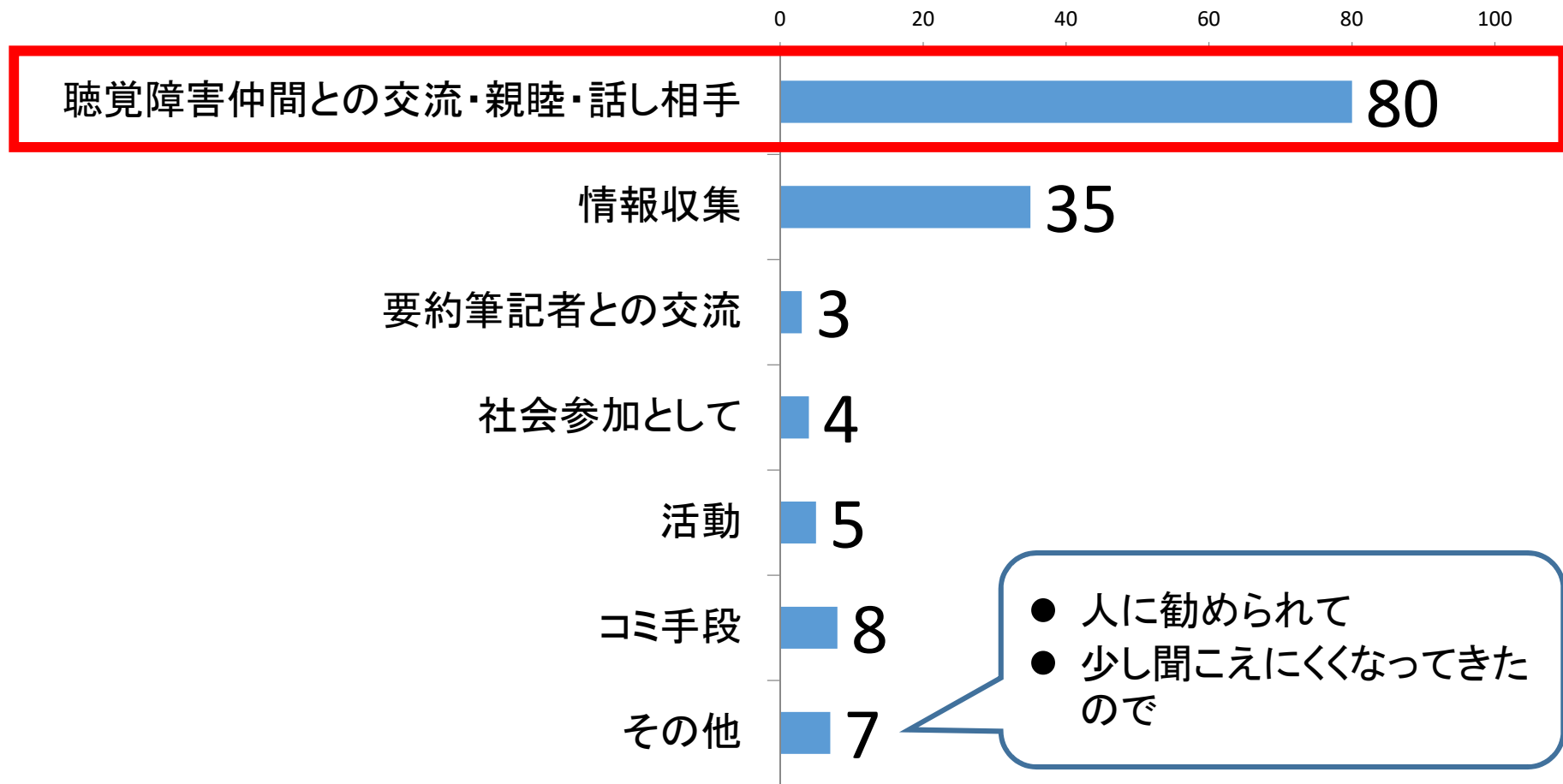
特定非営利活動法人 兵庫県難聴者福祉協会

アンケート調査概要

- 実施日程
平成28年5月から9月まで(約6か月)
- 調査対象
主に兵庫県在住の難聴者・中途失聴者。
10代～80代の約200名。
- 調査目的
調査対象者の現状把握を行い、必要な制度の整備や改善の所在を明らかにすること。

(難聴者) 協会に入会している (または、入会していた) 理由は?

- 自由記述式で回答を求め、分類したところ、下の回答となった。



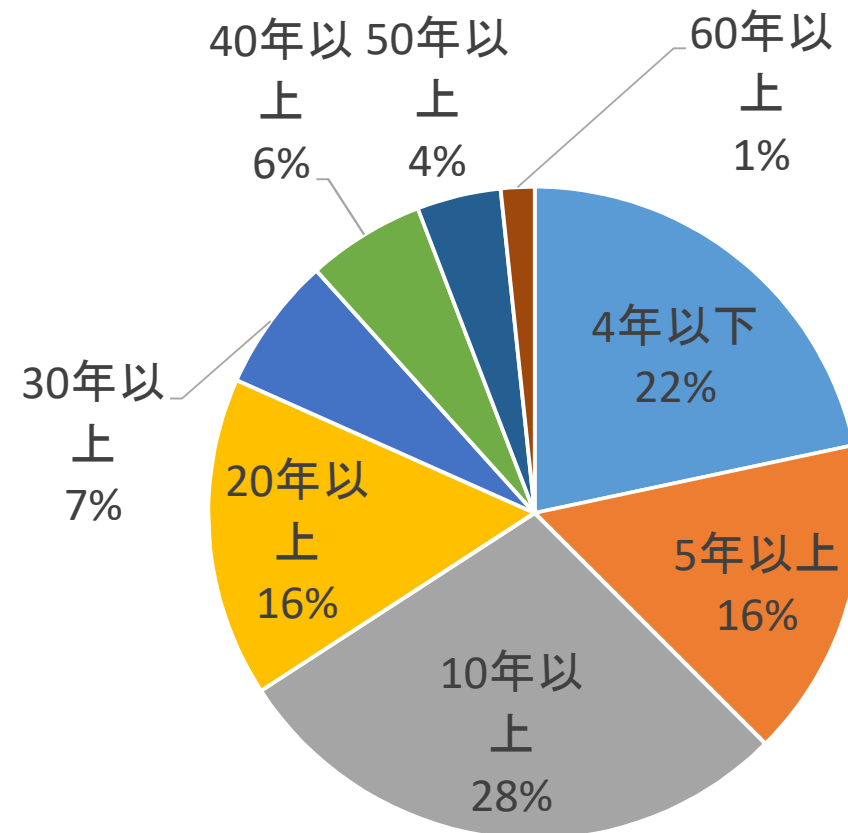
聴覚障害仲間と知り合って変わったことは？（自由記述式回答）

- 自由記述式回答から、10件紹介します。

一人じゃないと思えるようになった
嬉しくすぐ打ち解けた。困って悩んでいるのは自分だけではないと知り、明るくなった
孤独感、疎外感から解放。集う場があることは心の拠りどころ。生きる希望と喜び、楽しみが、家族でも通じ合えないという悲しみを和らげてくれる。心の安らぐ場となっている。
難聴を隠すことがなくなり、前向きの姿勢で出かける回数が増えた
情報障害のために疎外感を持っているのが自分だけではないと分かった
手話と出会い情報が増えた。友達が増えた。
友人・知人が増えて職場などでの孤独感が減った。多少のことは我慢ができるようになった。
仲間と耳以外の悩みもを本気で相談できる。心の拠りどころ。
以前は聞き取りにくく会話はすぐに終わったが、今は要約筆記者の筆記で言葉が良く分かる
コミュニケーション手段は声以外にもあることや、工夫や制度をやって前向きになれた。

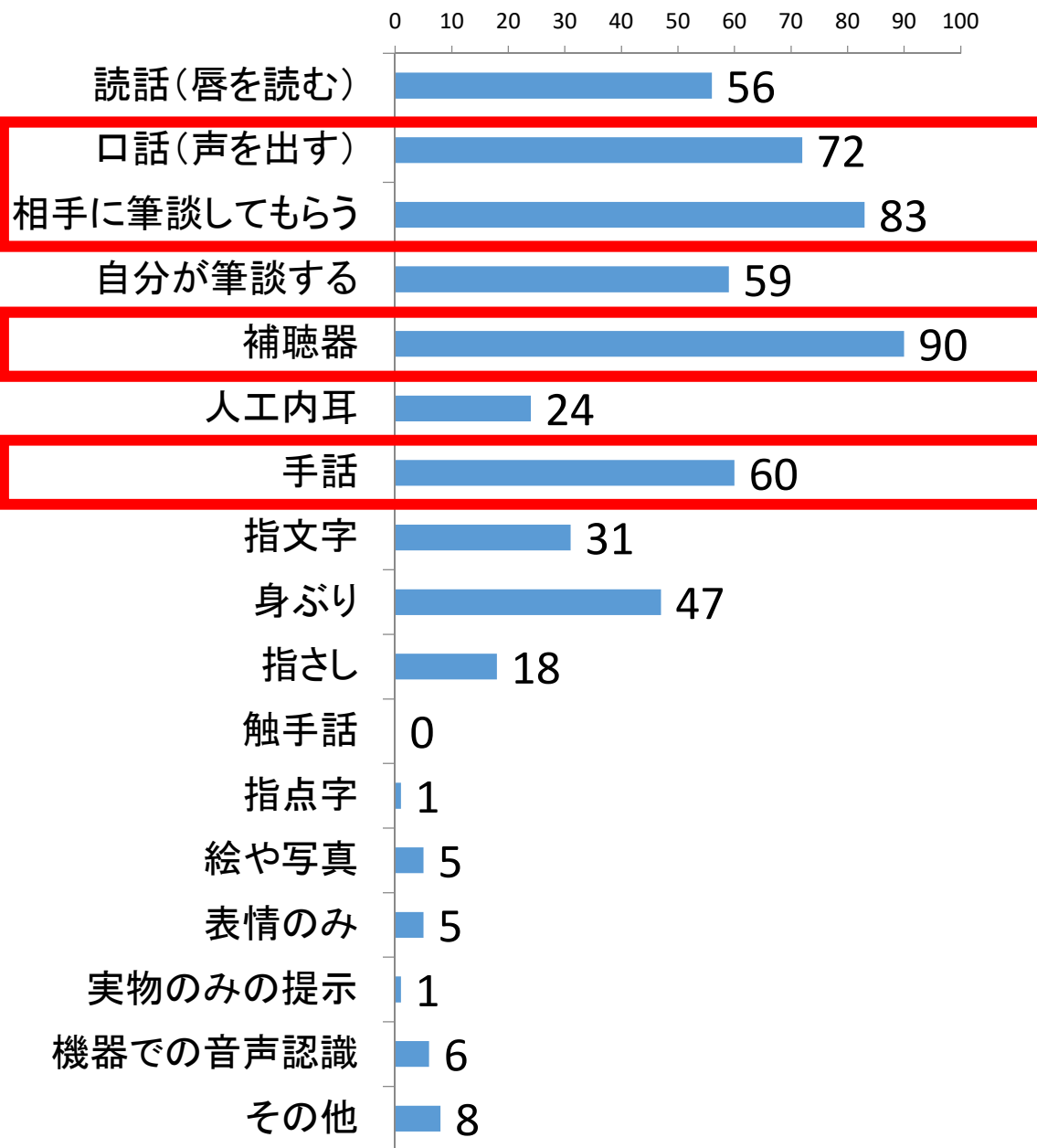
聴覚障害に気付いた年齢と、仲間と知り合った年齢の差

- 前項の回答から、仲間と出会うことの重要さがうかがえるが、4年以内に知り合った人は全体の4分の1である。
- この結果から、出会う機会の増加、行政や医療機関等と当会のような当事者団体の繋がりが不可欠であるといえる。



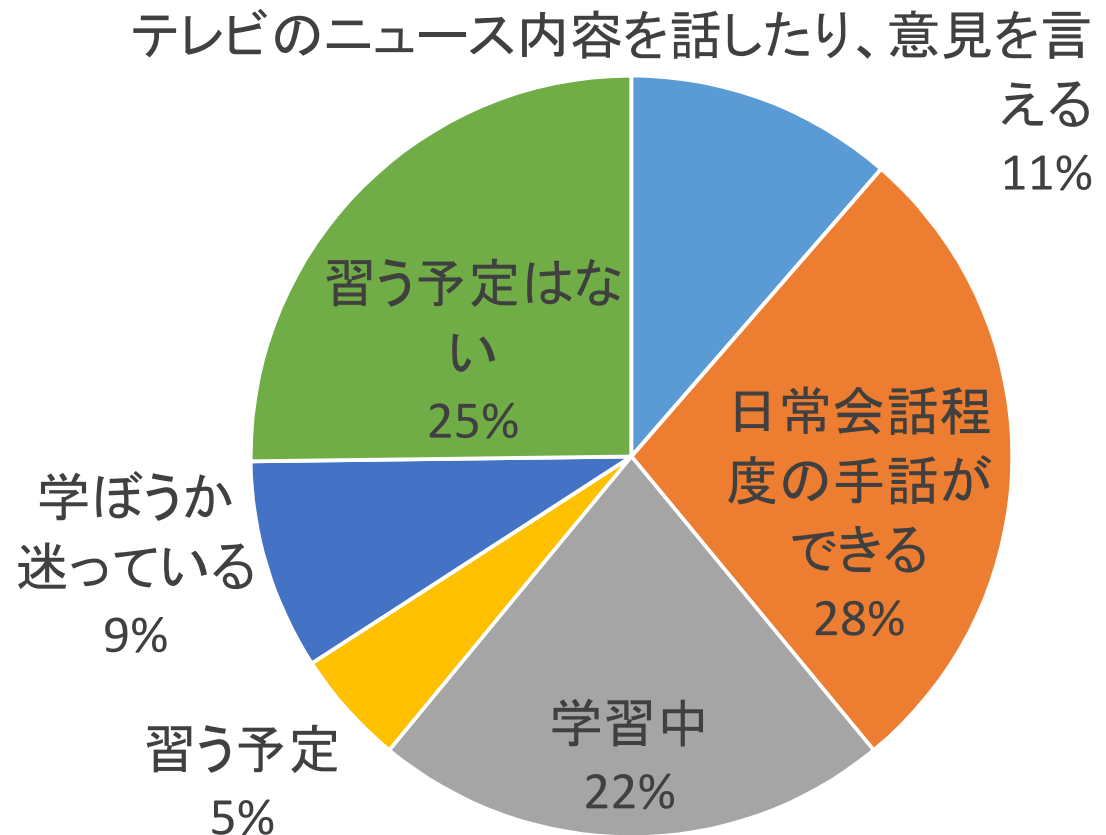
コミュニケーション手段

- 複数回答
- 様々なコミュニケーション手段を持っていることがわかる。
- 補聴器、相手に筆談してもらう、口話(声を出す)、手話、自分が筆談する の順に多い。



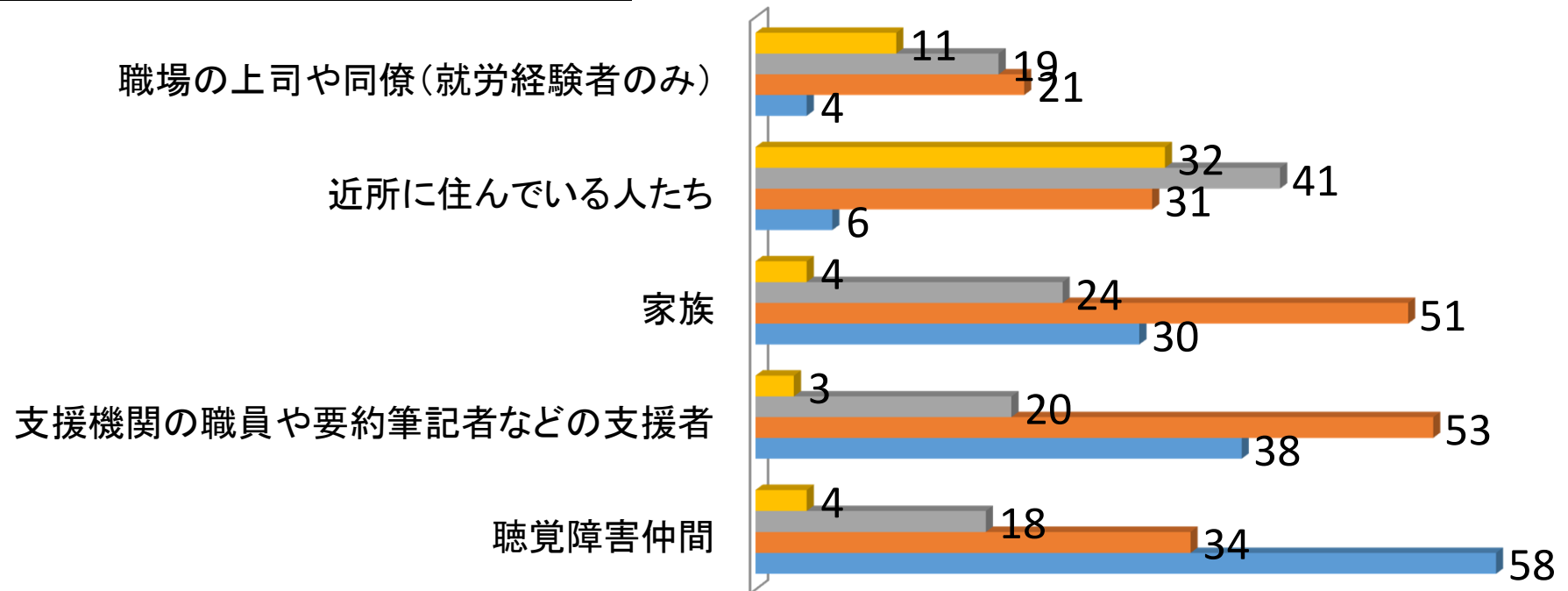
手話について

- 「テレビのニュース内容を話したり、意見を言える」11%と「日常会話程度の手話ができる」28%で40%となった。
- 「習う予定はない」と答えた方の理由は、高齢で覚えられない、使う機会がない、が上位をしめた。また、自分の母国語は日本語という理由もあった。



コミュニケーションの満足度

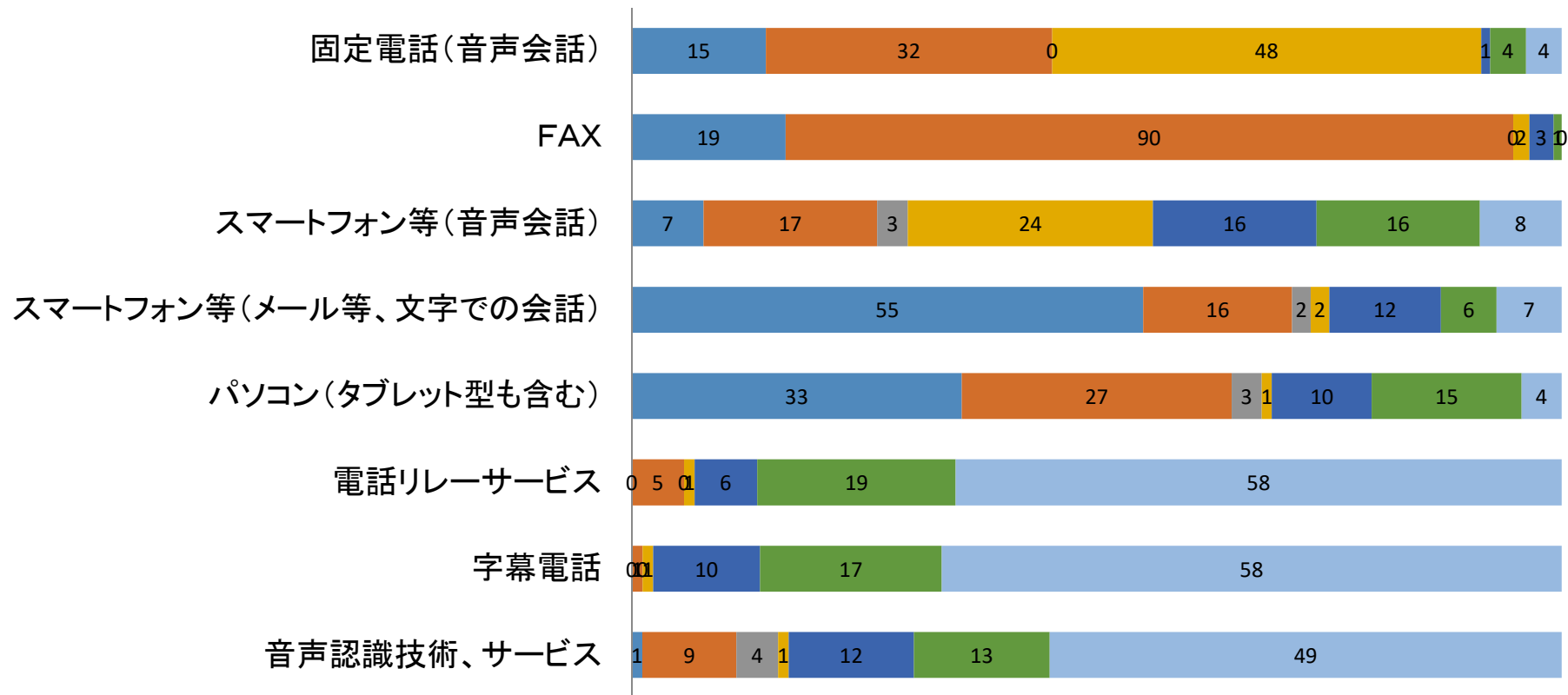
- 会話がほとんどない。満足していない。
- 会話が少ない。簡単なことしか話さない。
- 普通
- 様々なことを話せる。会話が楽しいと感じる。



- 聴覚障害仲間とは約半数の人が「様々なことを話せる。会話が楽しいと感じる」と感じているのに対し、近所に住んでいる人たちとは「会話がほとんどない。」「会話が少ない。簡単なことしか話さない。」が半数以上となった。

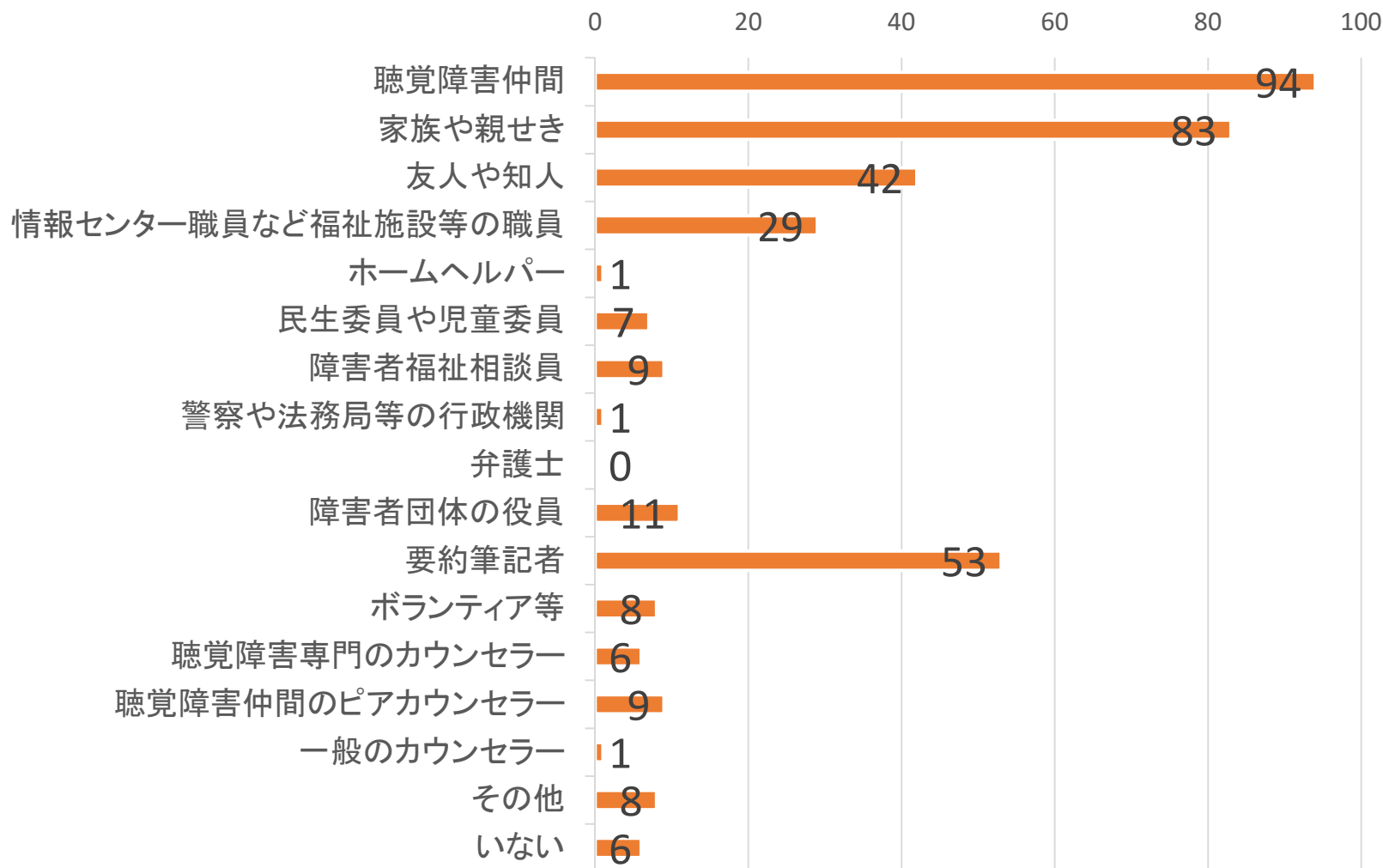
コミュニケーション機器・サービスの利用度

- ほぼ毎日使っている
- 持っているが、使い方が分からず、使っていない
- 欲しいと思っているが、持っていない
- その機器・サービスを知らない
- 時々使っている
- 持っているが、聞こえないため使っていない
- 欲しいと思っていない



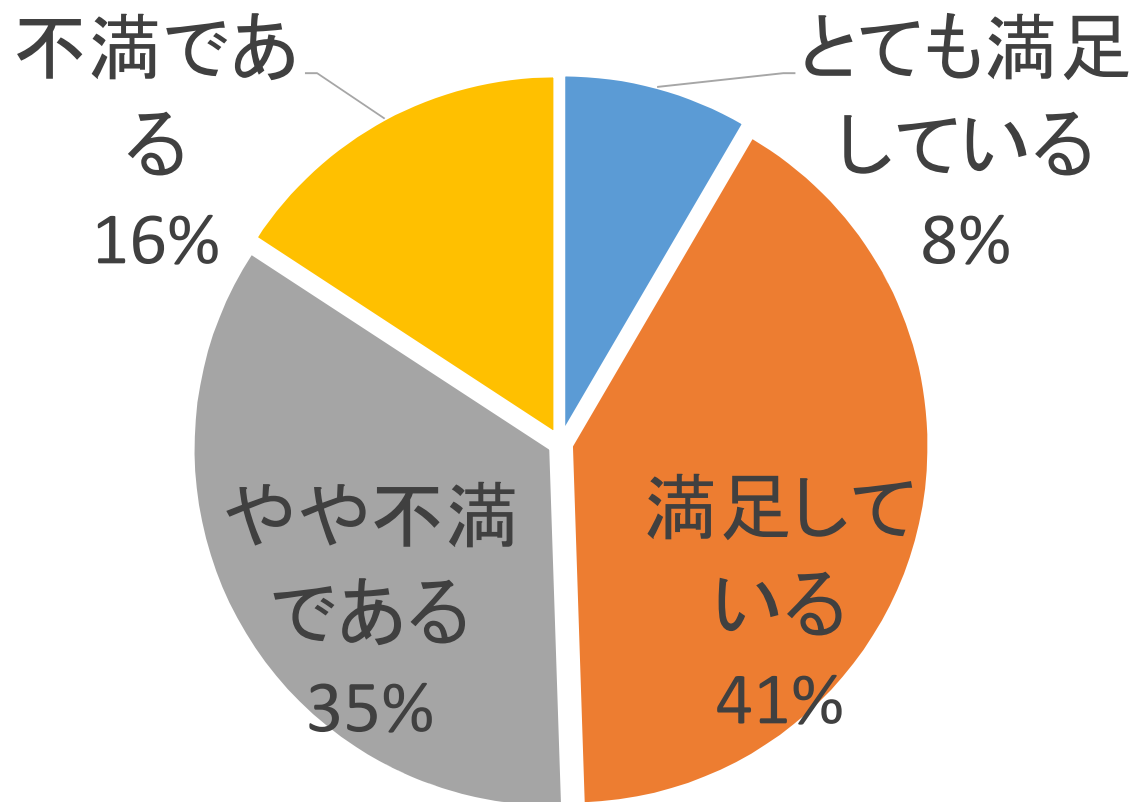
- ほぼ毎日使っているのは「スマートフォン等(メール等、文字での会話)」がトップ。FAXは「時々使っている」が90人で最多。

聞こえに関する悩みを話せたり、助けを求める人



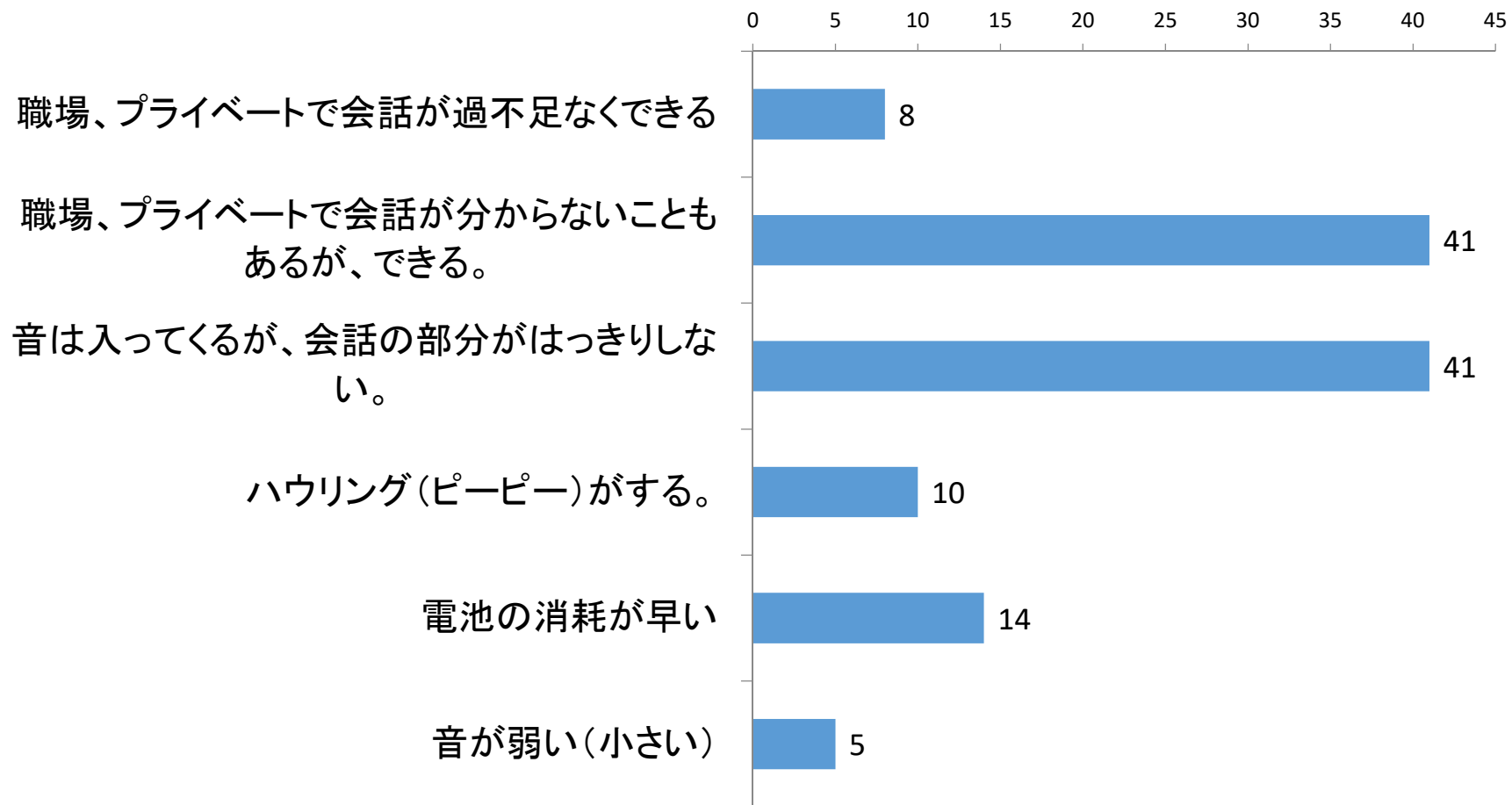
- 「いない」と答えた人が、理由に「必要だが、どうしていいか不明」と記載。

補聴器の満足度



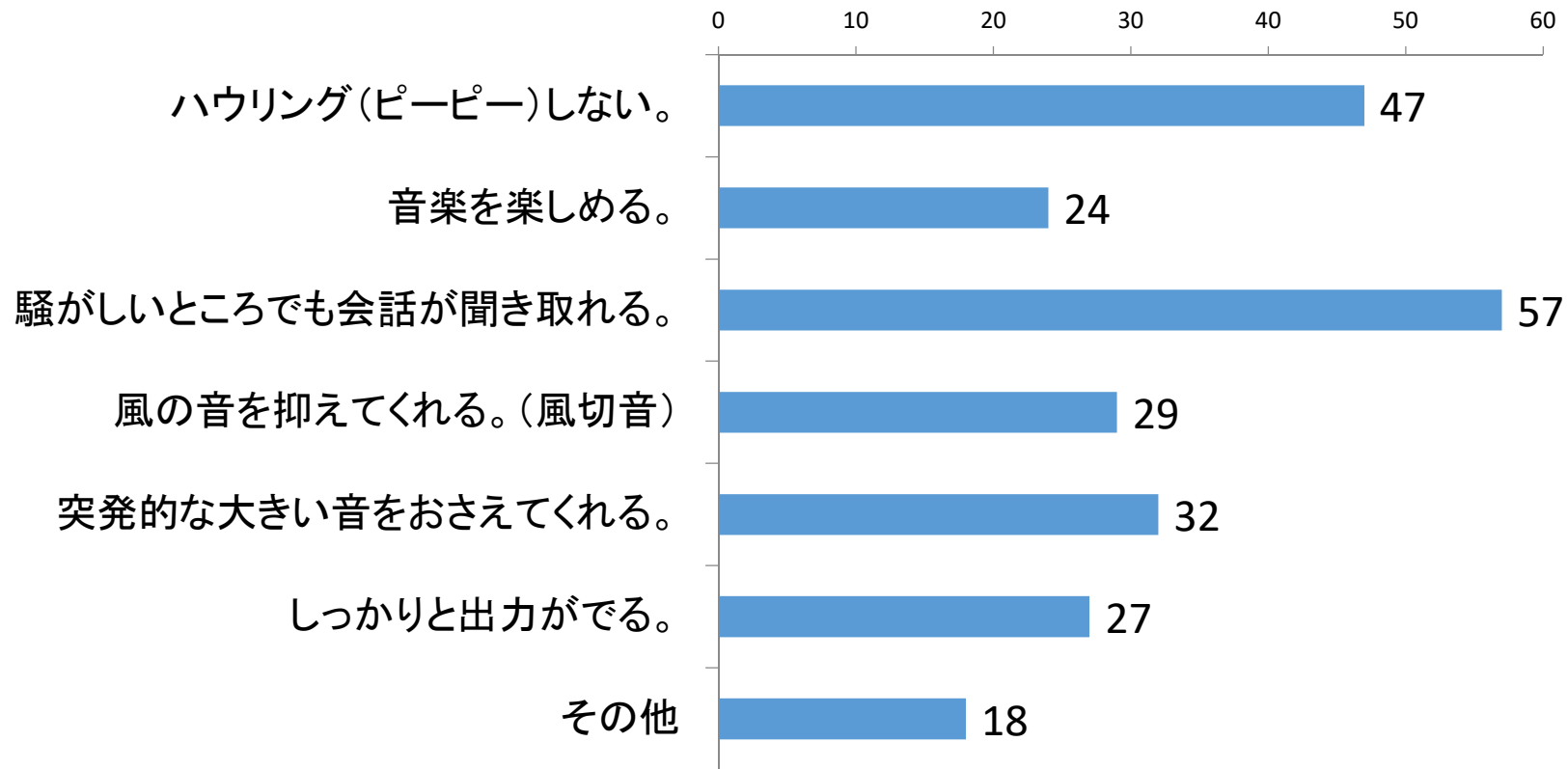
- 「とても満足している」「満足している」と、「やや不満である」「不満である」が半数となった。

補聴器の満足度 理由（複数回答）



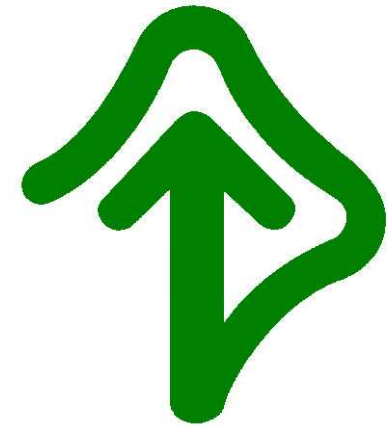
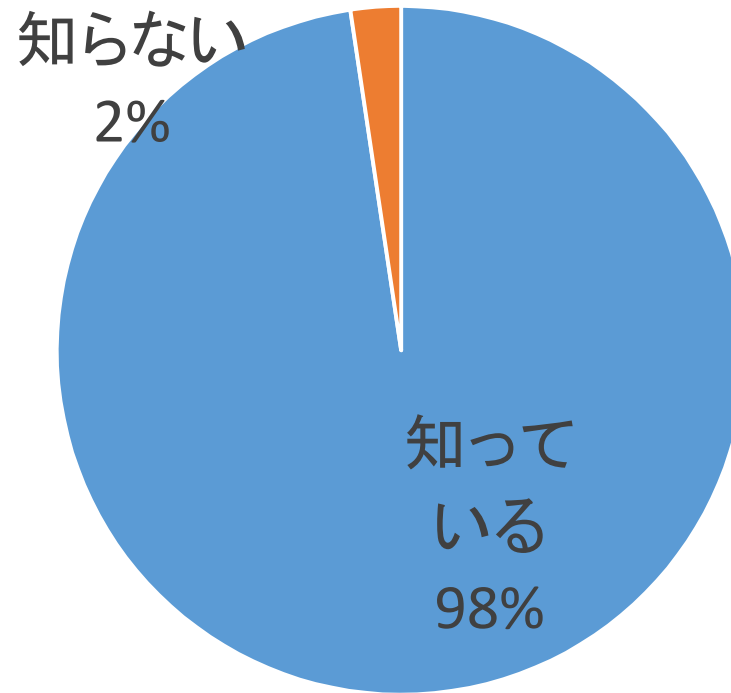
- 前述で答えた理由は、上記のとおりである。

補聴器に求める機能（複数回答）



- その他の自由記述を分析すると、「早口の人との会話ができる」「大勢の中で一人の声が聴き分けられる」「つけたままで電話ができる」「他の補聴機器と連動」「磁気誘導ループが使えるようTがついているもの」等があった。

耳マークを知っていますか？

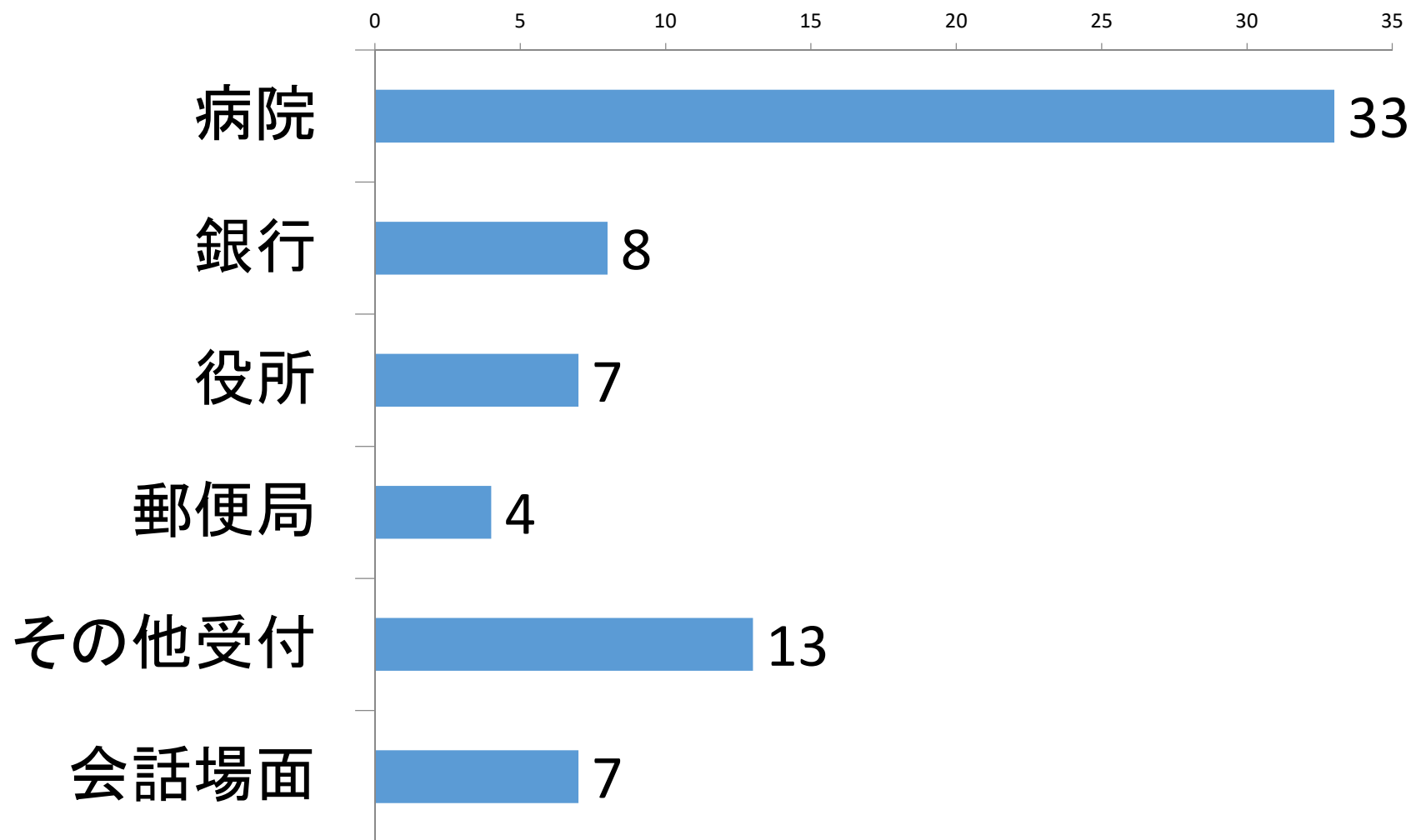


耳マーク

- 「知っている」が98%であった

耳マーク提示が必要と感じた状況は？

- 自由記述回答から、場所やシーンで項目分類した。



耳マーク提示が必要と感じた状況は？

- 上記の設問への自由記述欄に「マークを知らない・使っていない理由」が書かれていたため、まとめた

必要としているが、何処で購入するのか分からない

見たことがある程度で、用途を知らない。

会話するとき。だが、大きな声で話してもらっているのみで、提示していない。

相手が耳マークを理解できているか不安で遠慮

受け手が周知していれば使用すると思う

必要を感じても会話ですます

同箇所にも書かれていた下記も参考にされたい

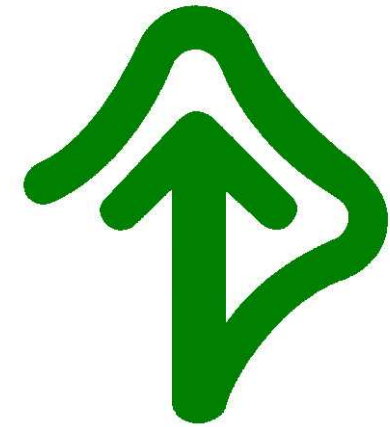
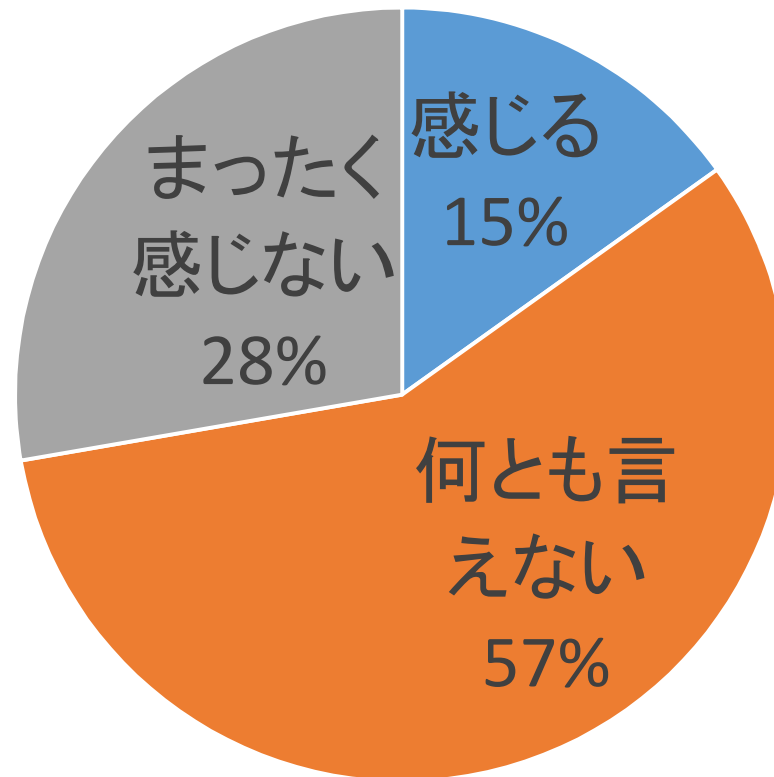
声をかけられたが分からず殴られた、耳マークをバッグにつけてからそのような事はない

毎日名札を兼ねて首からぶらさげている

話せるので聞こえないと認識されない

マークがあってもはっきり言ってくれない

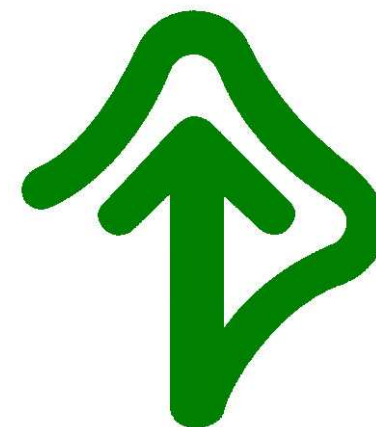
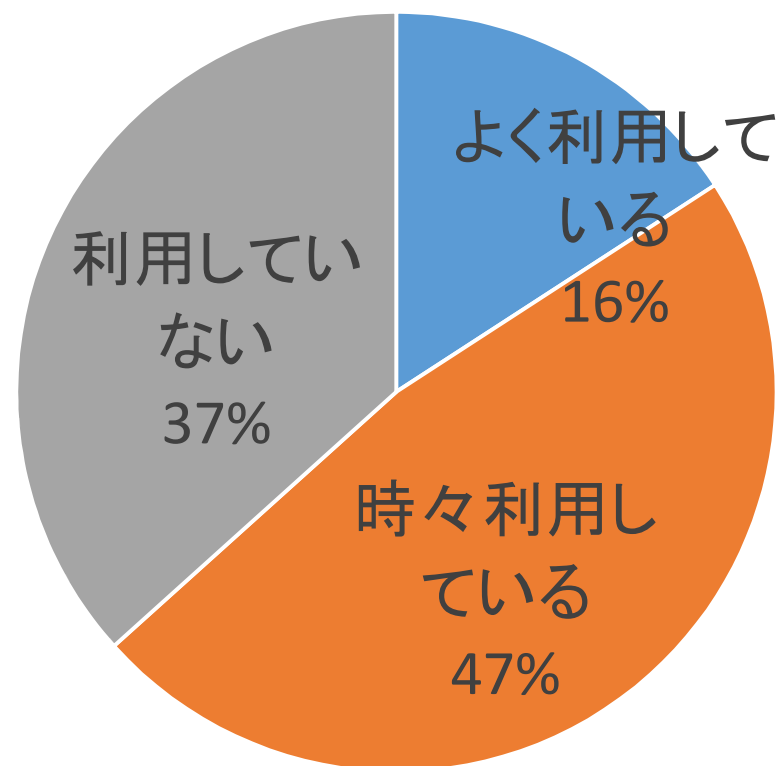
耳マークが社会において浸透していると感じますか？



耳マーク

- 「感じる」が18%と低く、「まったく感じない」28%を下回った。

耳マークグッズを利用していますか。



耳マーク

- 「よく利用している」「時々利用している」で、半数以上となった。
- 前項の回答で「(浸透していると)まったく感じない」と答えている人も利用している。

耳マークグッズを利用していますか。

- 前項の設問で、「利用していない」理由には、次のようなものがあった。

社会に浸透していないので意味がない

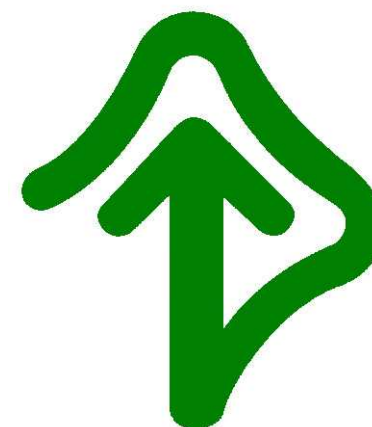
自分から聞こえが悪いことを伝えている

提示しても相手がなにをしたらよいか知らない

相手がしているかどうか分からない

貼っても忘れられる

恥ずかしい



耳マーク

- また、「用途を知らない。」「グッズを知らない」「どこで購入できるのか分からない」と、有効に使える状況にいない人もいることがわかった。

販売しているグッズ以外に欲しいグッズ

自転車、単車に乗るときのタスキ

大きな耳マークのTシャツ(夏に)

呼ばれる場所ですぐ相手にわかりやすいものがほしい

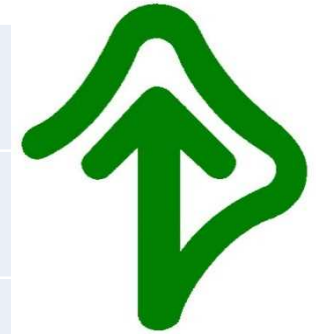
知らない人も多いので、誰もが見て理解できるようなグッズ。

可愛いものがほしい。

夜間に光るもので大きなもの

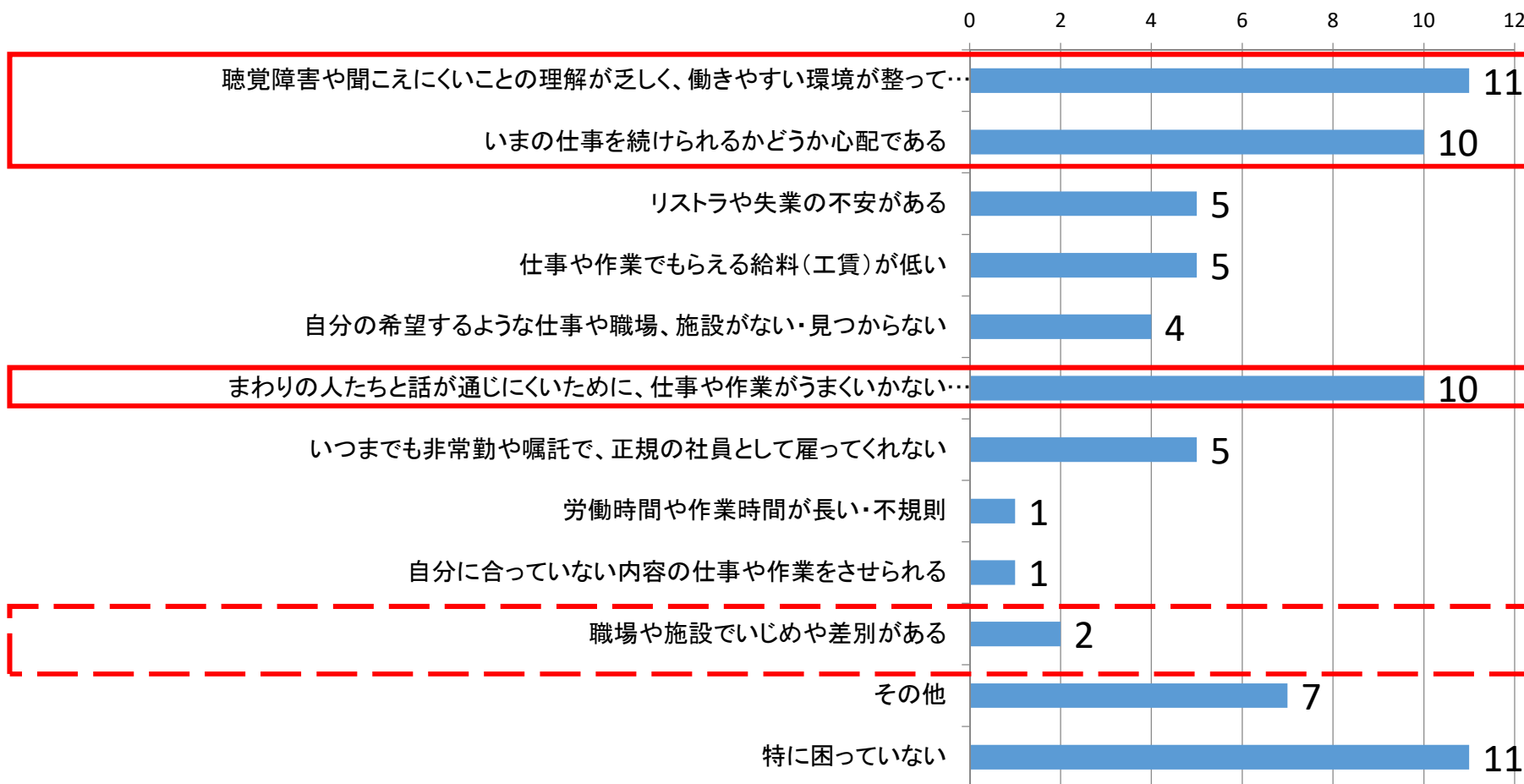
夜間反射するもの。夜間後ろから来る自転車、人に難聴者であるとわかるように。世間への啓蒙。

災害時に身につけられる手首バンド等(蓄光)



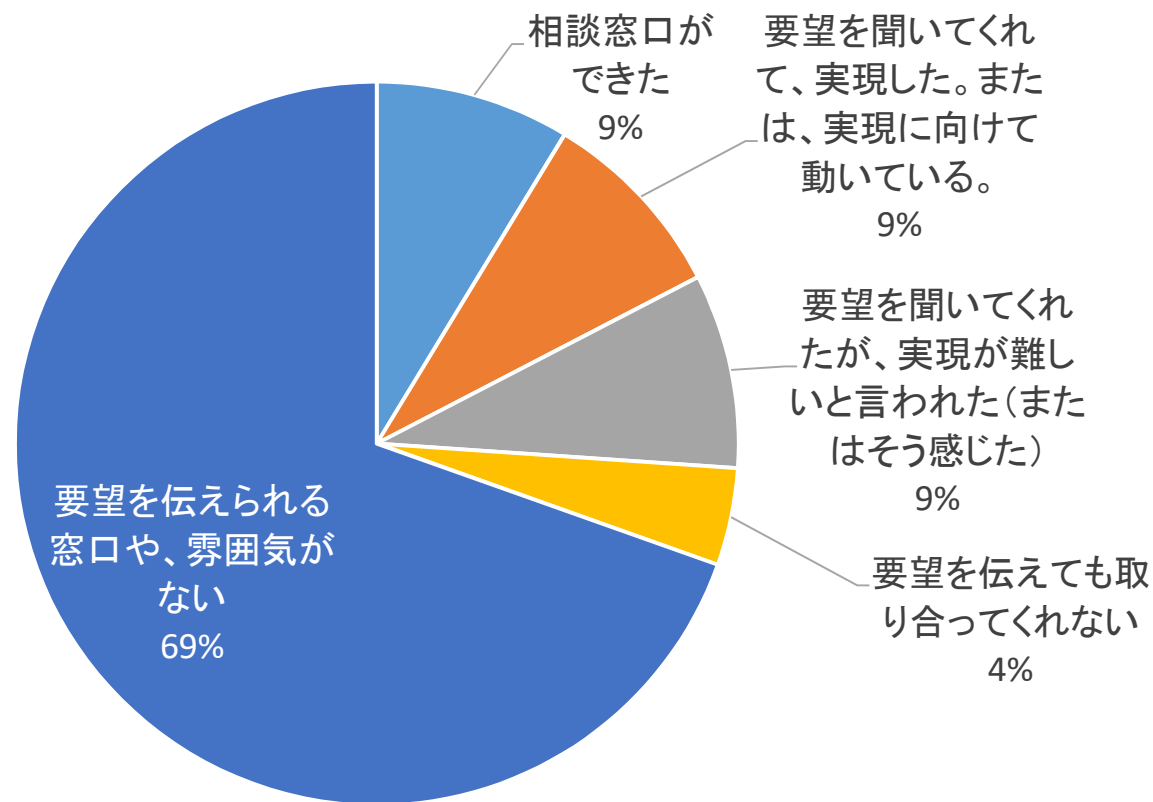
耳マーク

仕事で困っていること（複数回答）



- トップは実線で囲んだ。いじめや差別が2件ある。

障害者雇用促進法が改正施行されたのち、 職場での変化は？



- 「要望を伝えられる窓口や雰囲気がない」が69%で最多。また、「要望を伝えても取り合ってくれない」がある。

耳鼻咽喉科専門医とのコミュニケーションや 情報提供について困ったこと

待合室まで届く大声で話され恥をかいた。今は書いてくれる。

医師が難聴について分かっておらず、耳元で大声でどなる。マスクをはずしてくれたら口の動きで半分はわかるのに。

書いてくださらないので、適当に聞いている。

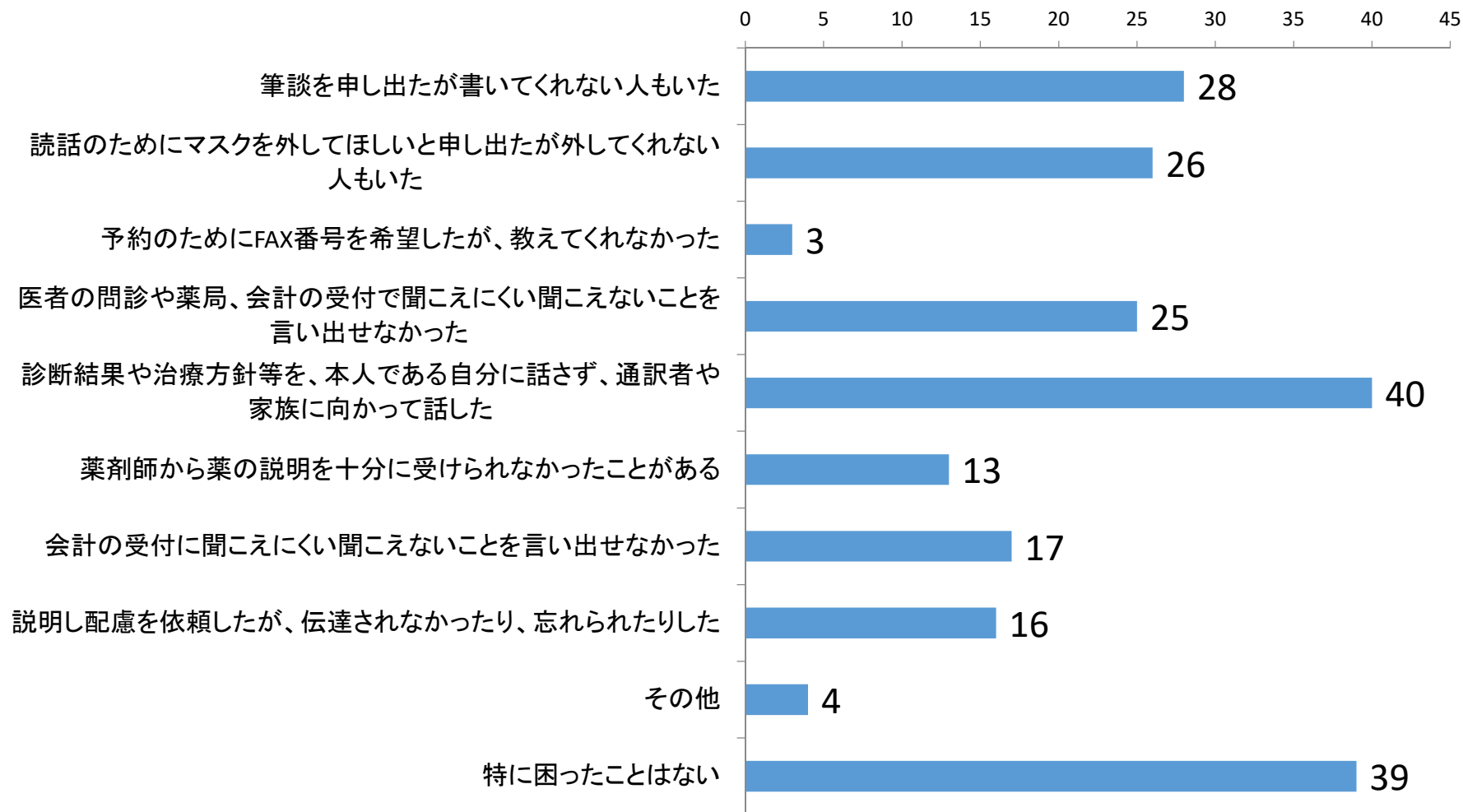
先生がマスクをしたまま話す。聴力レベルが分かっているのに普通に話をする。筆談されない。

聞こえなくて受診しているのに医師は普通に話され内容がわかりにくかった

早口で話す

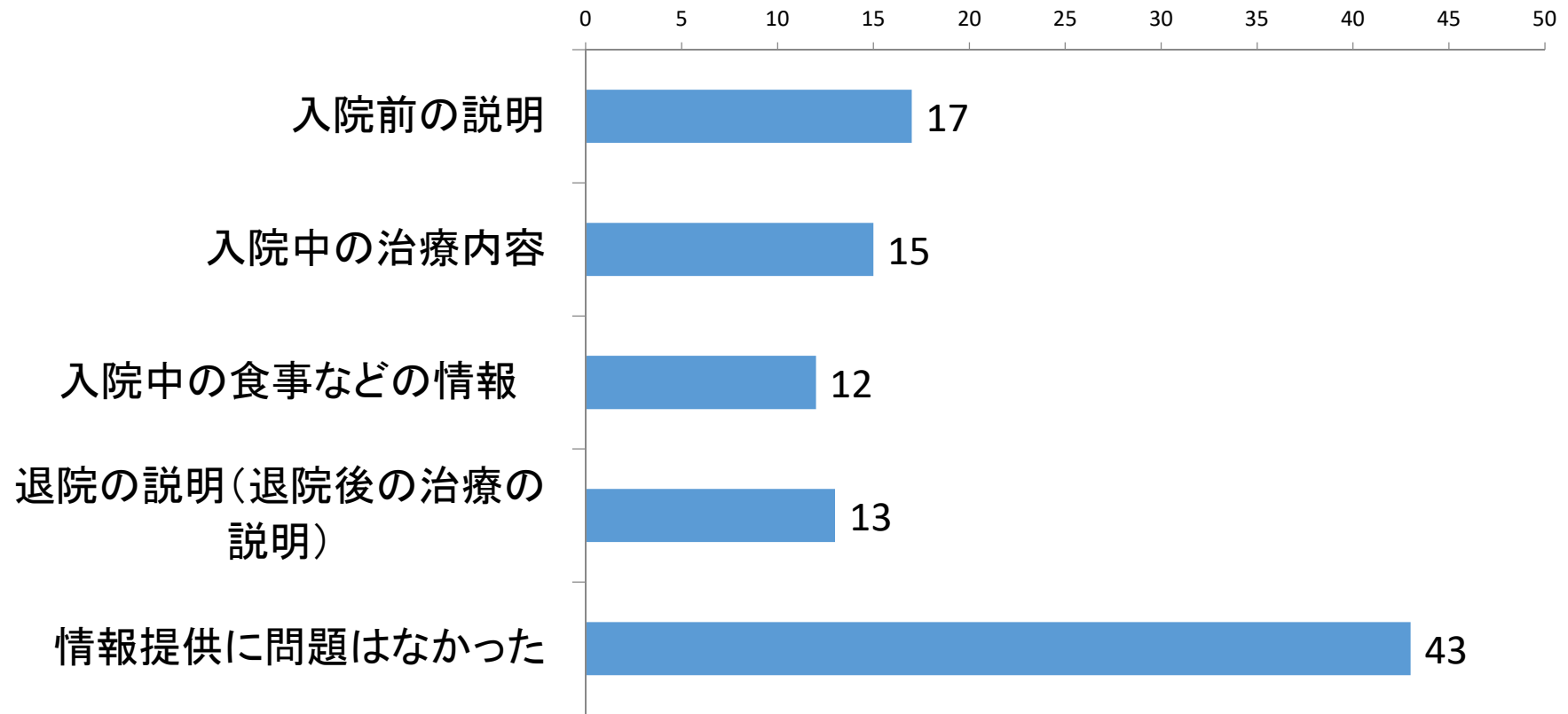
- 耳鼻咽喉科専門医であっても、理解や配慮がなされていないという実態があきらかである。

医療機関で困ったこと（複数回答）



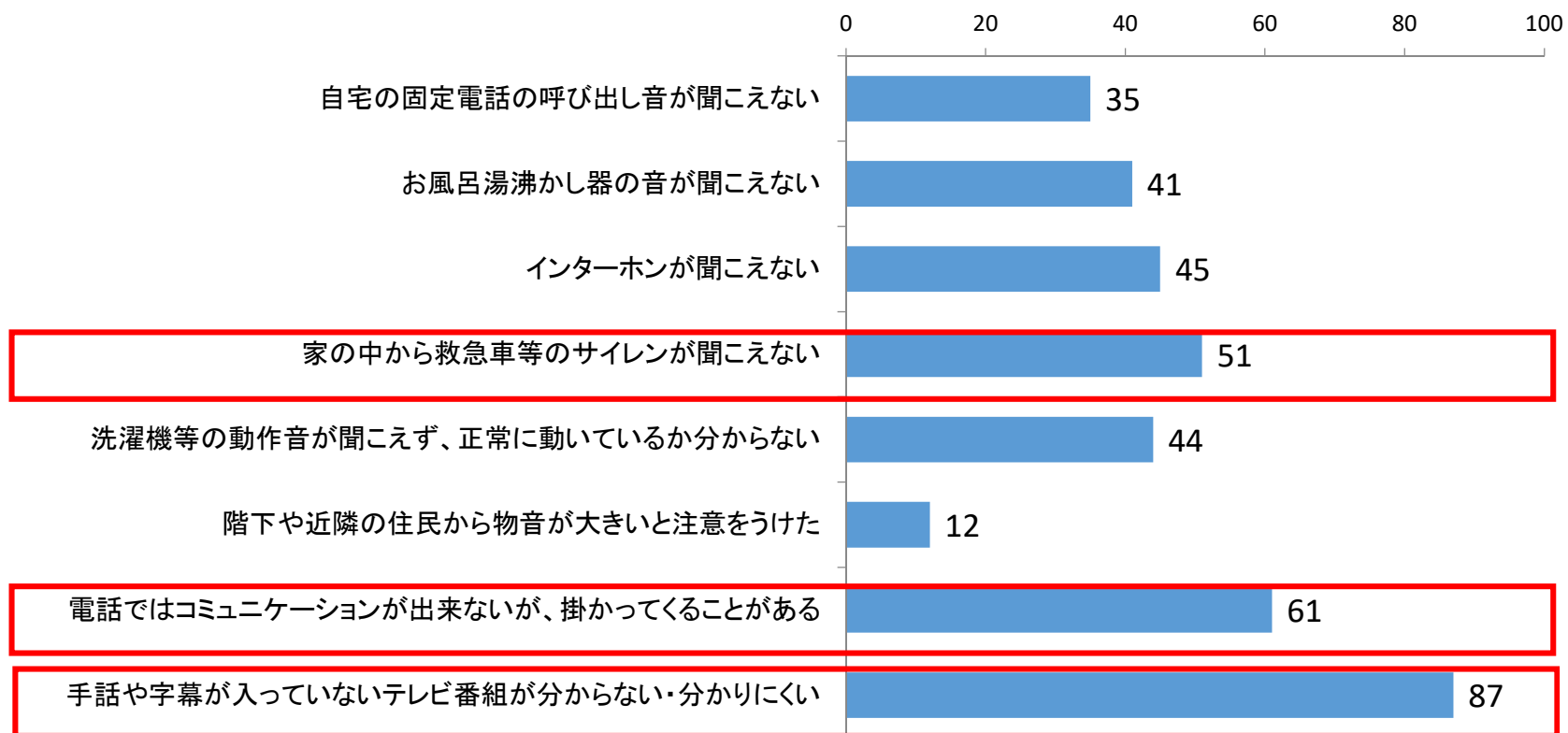
- 医療機関においても、まだまだ配慮がなされていないことが分かる

入院に際して情報がうまく提供されなかったと感じた場面



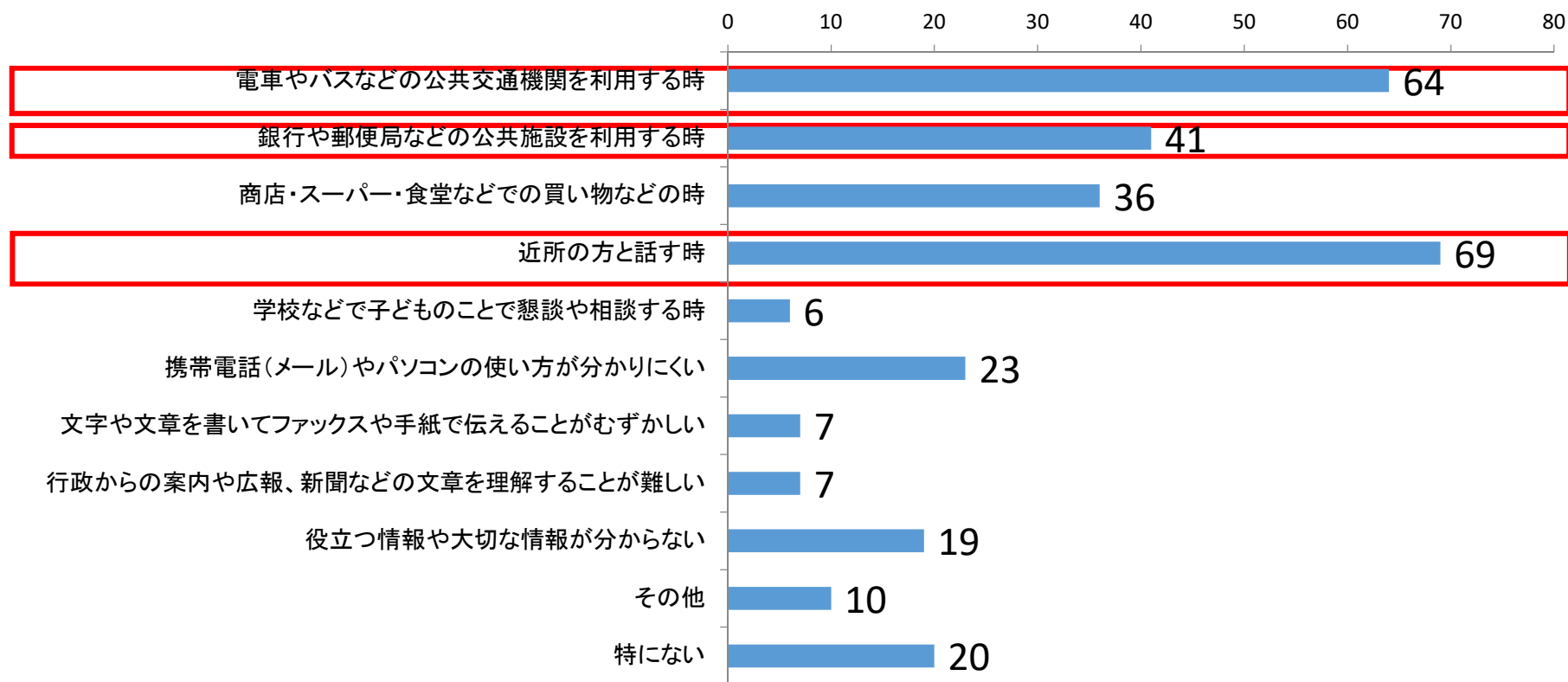
- 医療機関での医療行為も当然だが、入院に際しては、費用や治療方法などトラブルとなりやすい要素が多いため、当事者にとって情報提供されなければならないが、伝わっていないと感じた人は多い。

日常生活で困っていること



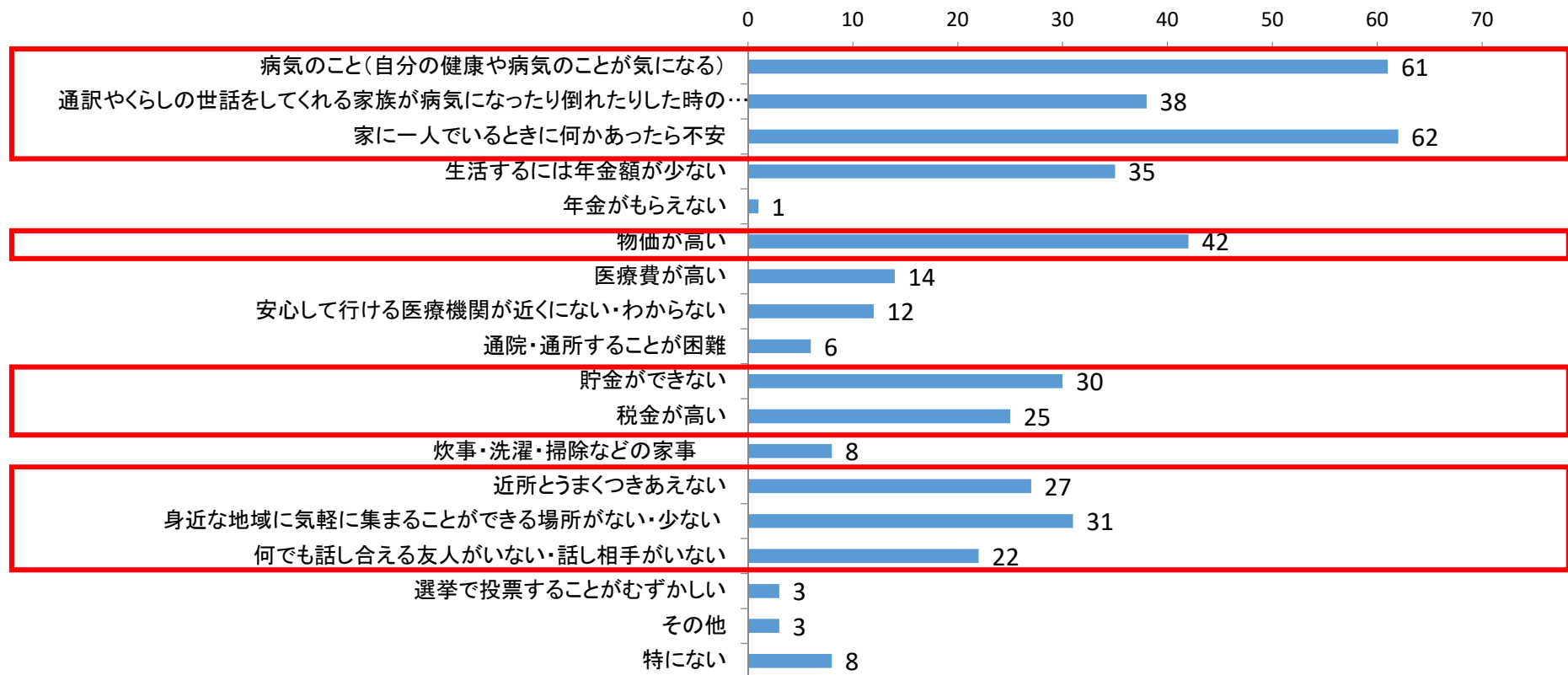
- 「手話や字幕が入っていないテレビ番組・・・」がトップだが、電話でコミュニケーションが出来ないのに掛かってくることに困っている人が多い。また、家の中から救急車等のサイレンが聞こえないことは退避行動に遅れが出て危険であるため、他の手段で把握できることが必要ではないか。

情報の入手やコミュニケーションに 不自由を感じる場面（複数回答）



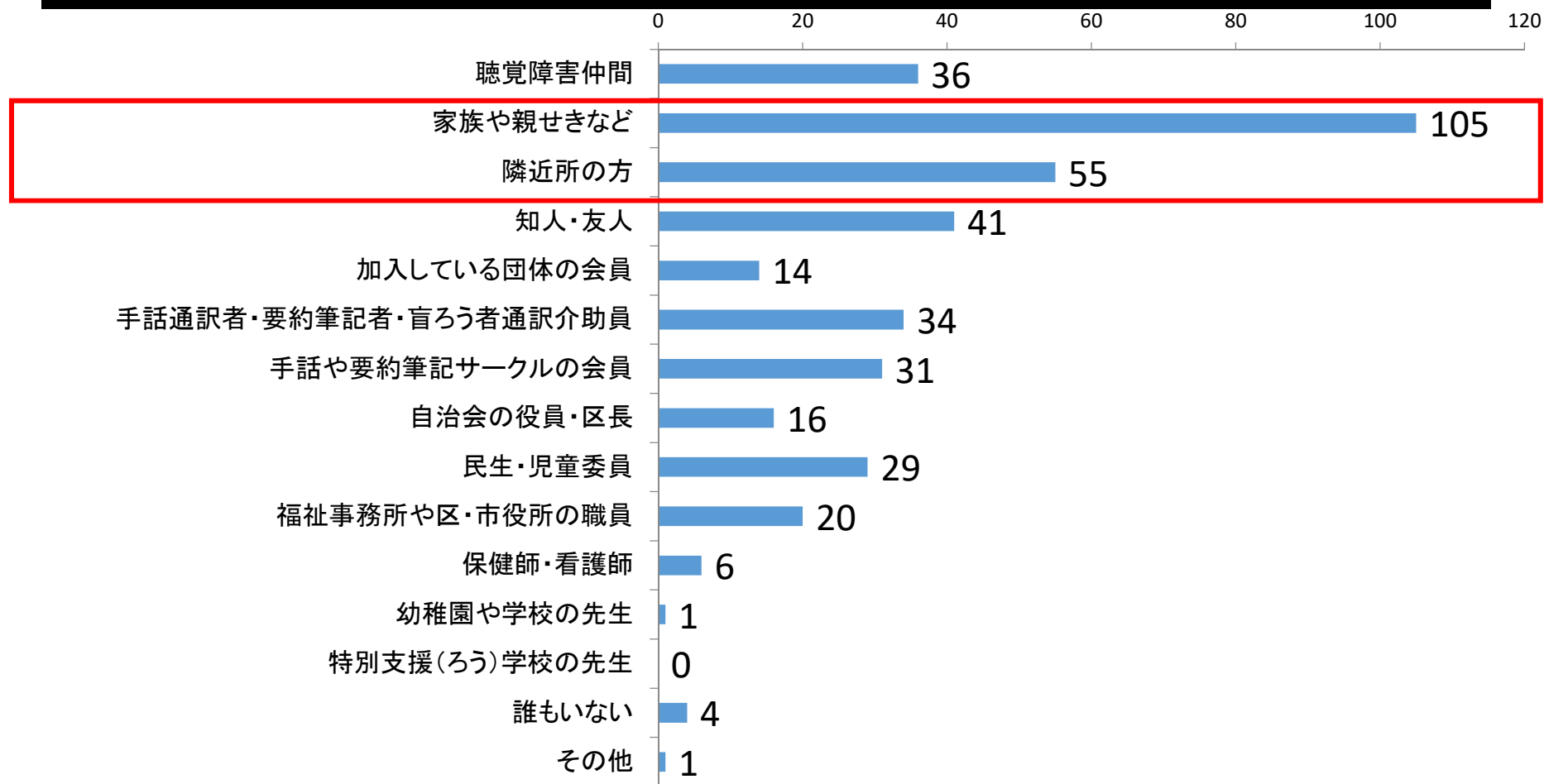
- 近所の方と話す時が69名と多く、電車やバスなどの公共交通機関を利用するとき、銀行や郵便局などの公共施設を利用するときなど、公共機関であっても不自由を感じていることがわかる。

日ごろのくらしの中で、困っていることや不自由に感じること（複数回答）



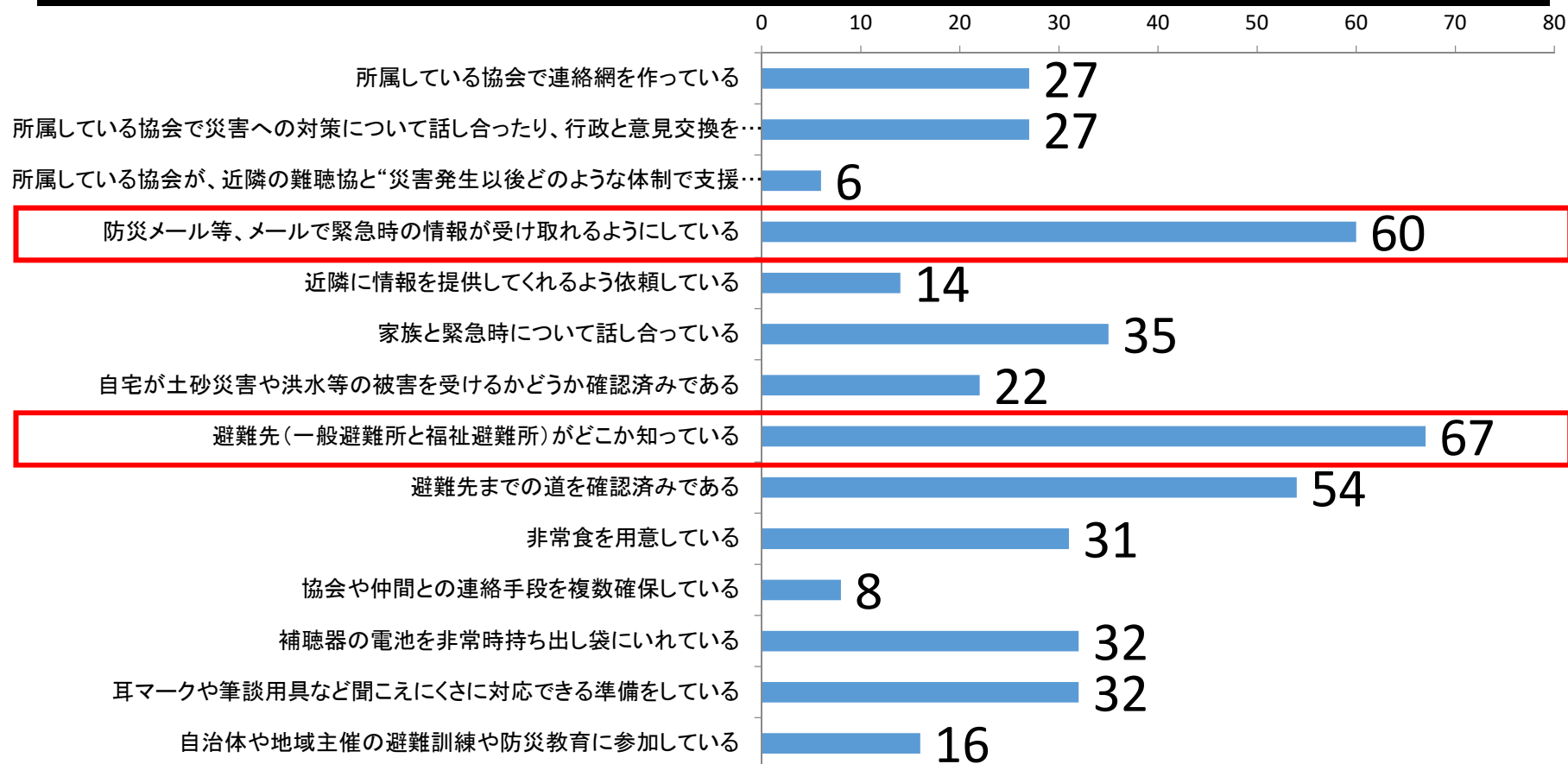
- 家に1人でいるときに何かあったら不安、病気のこと以外に、年金額が少ない等の生活費の心配が多く、次いで、近所とうまく付き合えない、話し相手がいないが多い。

緊急時に頼りにする方（複数回答）



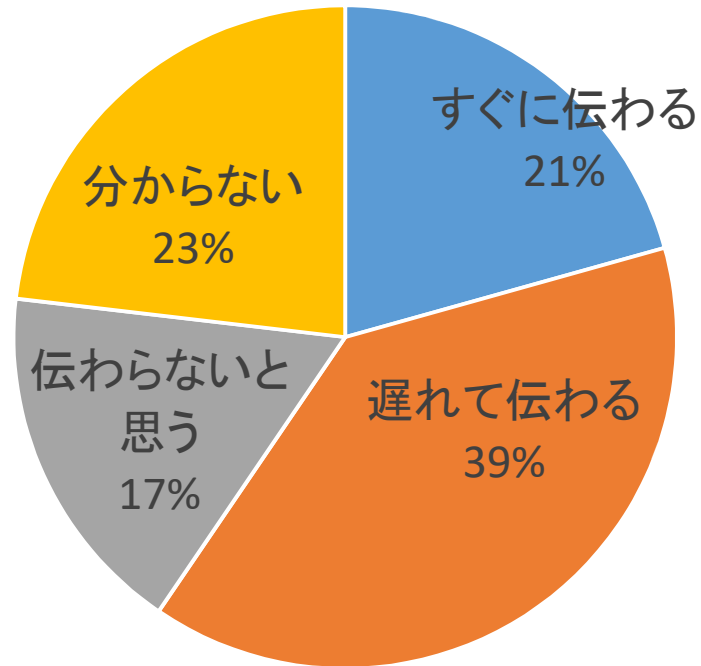
- 「家族や親せきなど」が多い。次いで「隣近所の方」だが、前述の「コミュニケーション満足度」は低く、隣近所からの支援が十分に受けられる状況にあるのかは今回の調査では分からない。

災害への対策（複数回答）



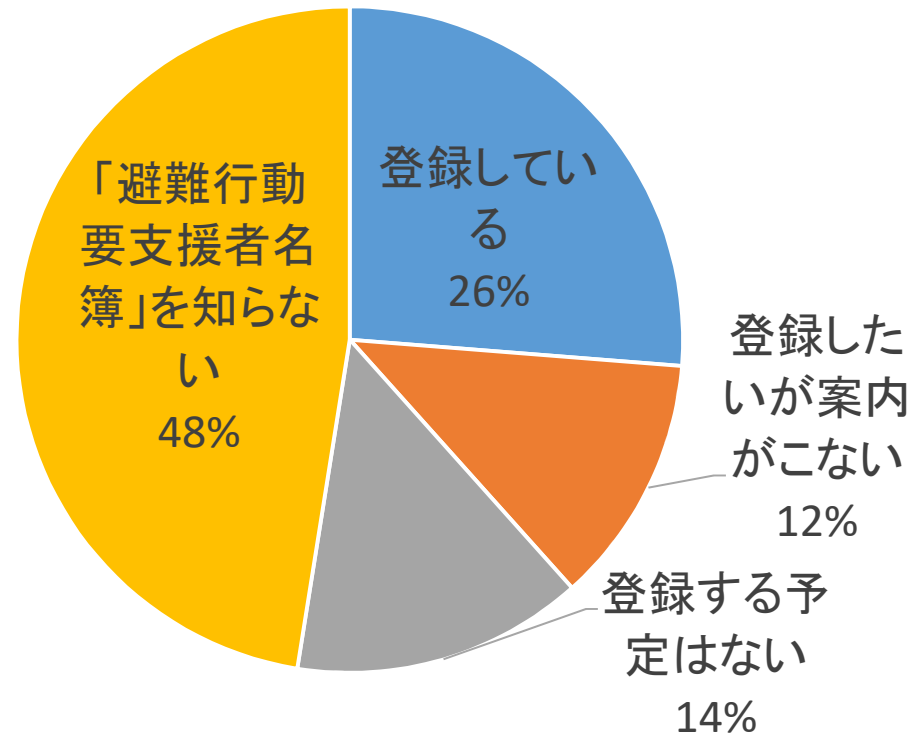
- 「避難先がどこか知っている」、「防災メール等で緊急時の情報が受け取れるようにしている」等、自助については進んでいるが、「近隣に情報を提供してくれるよう頼んでいる」「自治体や地域主催の避難訓練・・・」が少なく、扶助共助との繋がりが少ないように感じる。

災害時に、情報が伝わると思うか



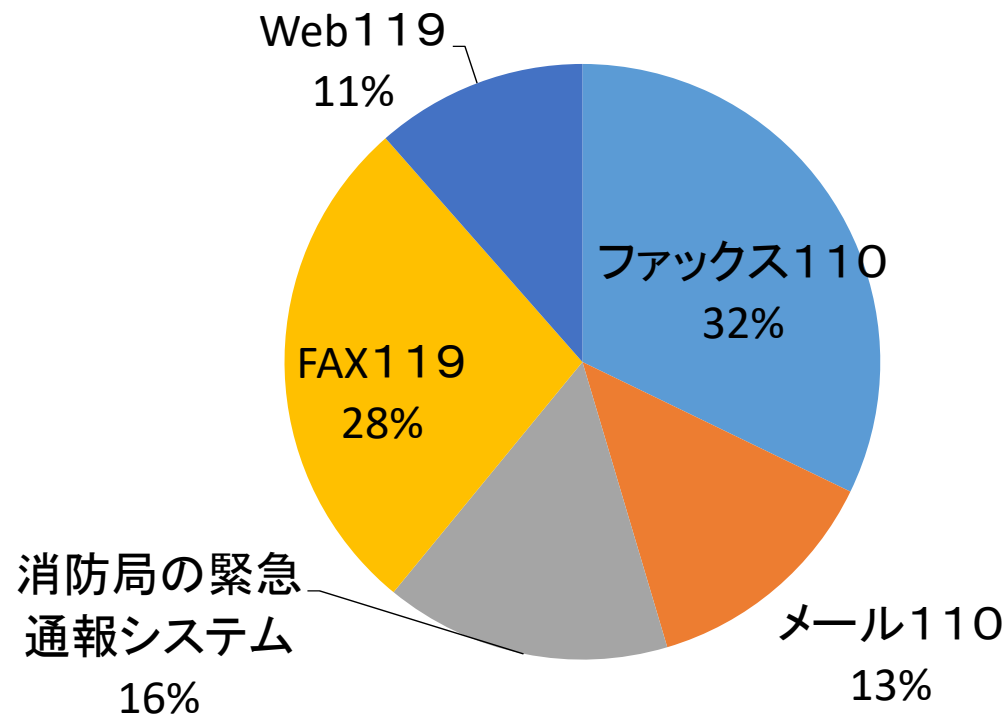
- 「伝わらないと思う」、「分からない」が40%を占めており、現在の緊急時の連絡体制に不安や物足りなさを抱いている。

避難行動要支援者名簿について



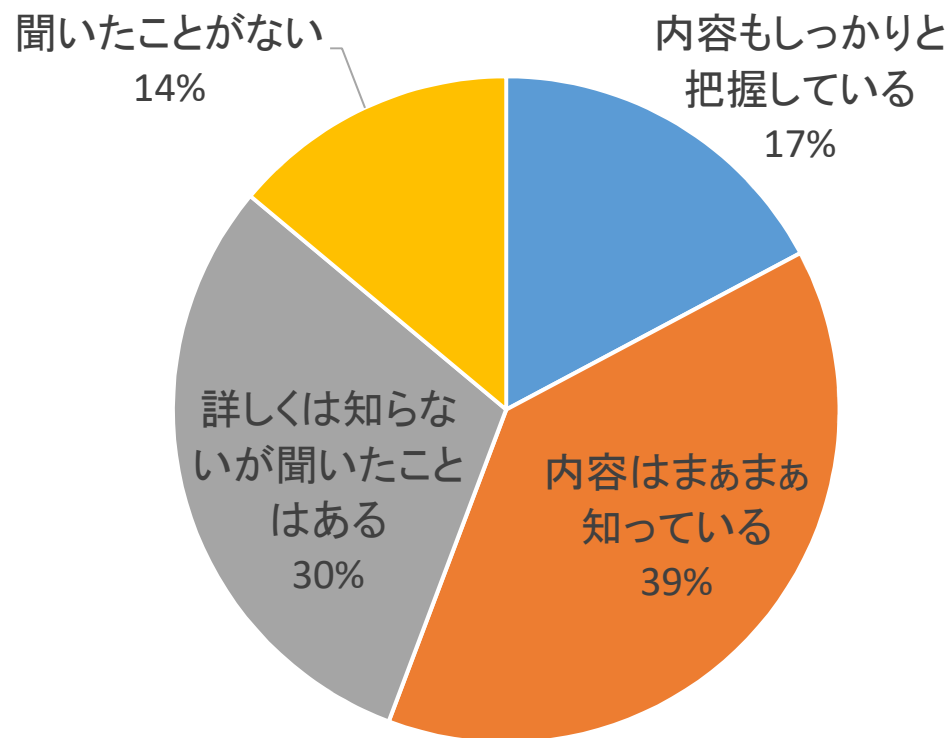
- 名簿の作成は法的義務であり、要件からもれた者も、自ら名簿への掲載を求めることができるが、名簿を知らない、案内がないという状況にある人が半数以上を占める。

警察や消防局に連絡する手段として知っているもの（複数回答）



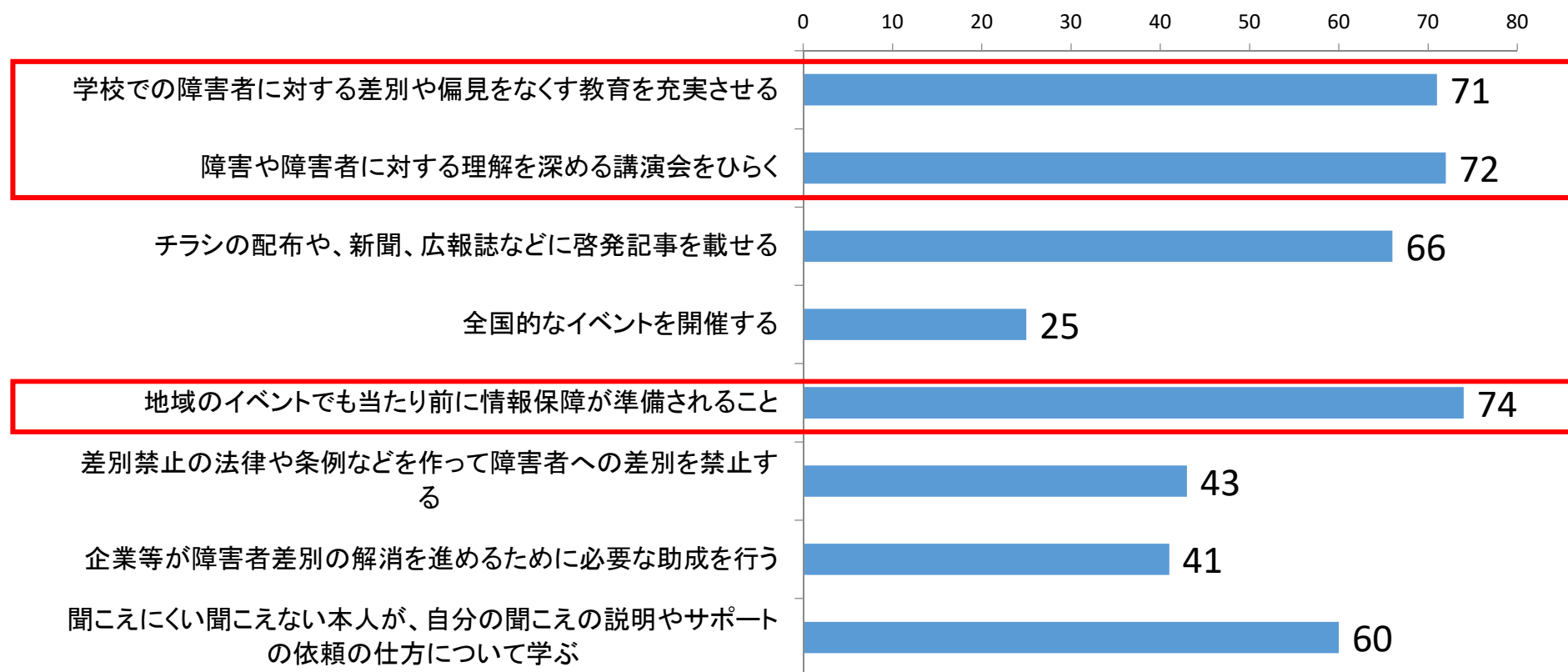
・地域よって取り入れられていないものもあるが、回答者133名内、50名が5種すべてを知らず、内11名が一人暮らしであり、連絡の発信が困難ではないかと推測される。

障害者差別解消法を知っていますか？



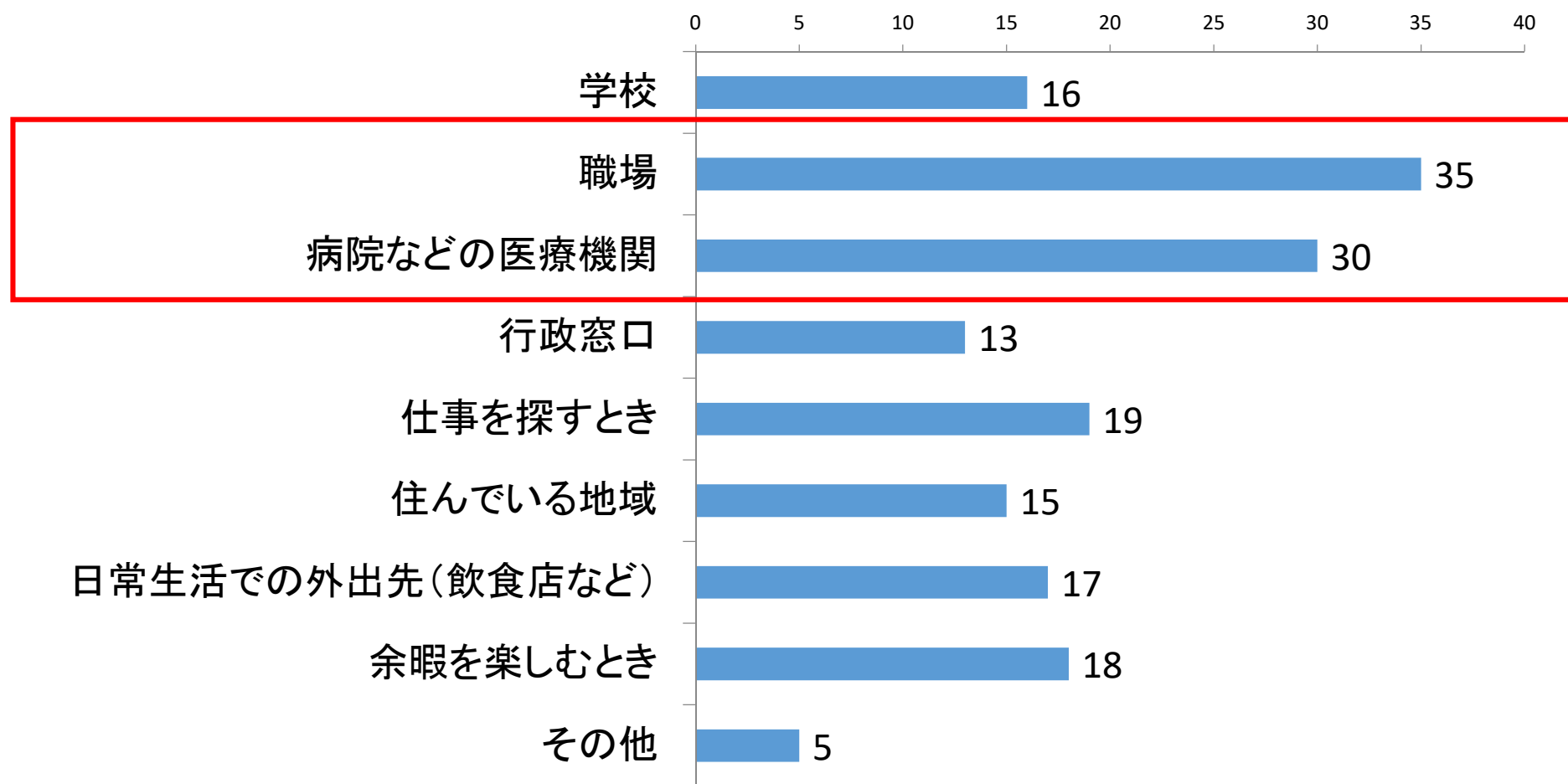
・「内容もしっかりと把握している」「内容はまあまあ知っている」が半数を占めるが、「聞いたことがない」人もおり、当事者も学べる場所が必要である。

聞こえにくい聞こえないことについて理解を進めるために必要と思われること（複数回答）



・「地域のイベントでも当たり前情報保障が準備されること」「理解を深める講演会を開く。」「学校での障害者に対する差別や偏見をなくす教育を充実させる」が多いが、「聞こえにくい聞こえない本人が、自分の聞こえの説明やサポートの依頼の仕方について学ぶ」も多い。

差別・偏見を受けた場所（複数回答）

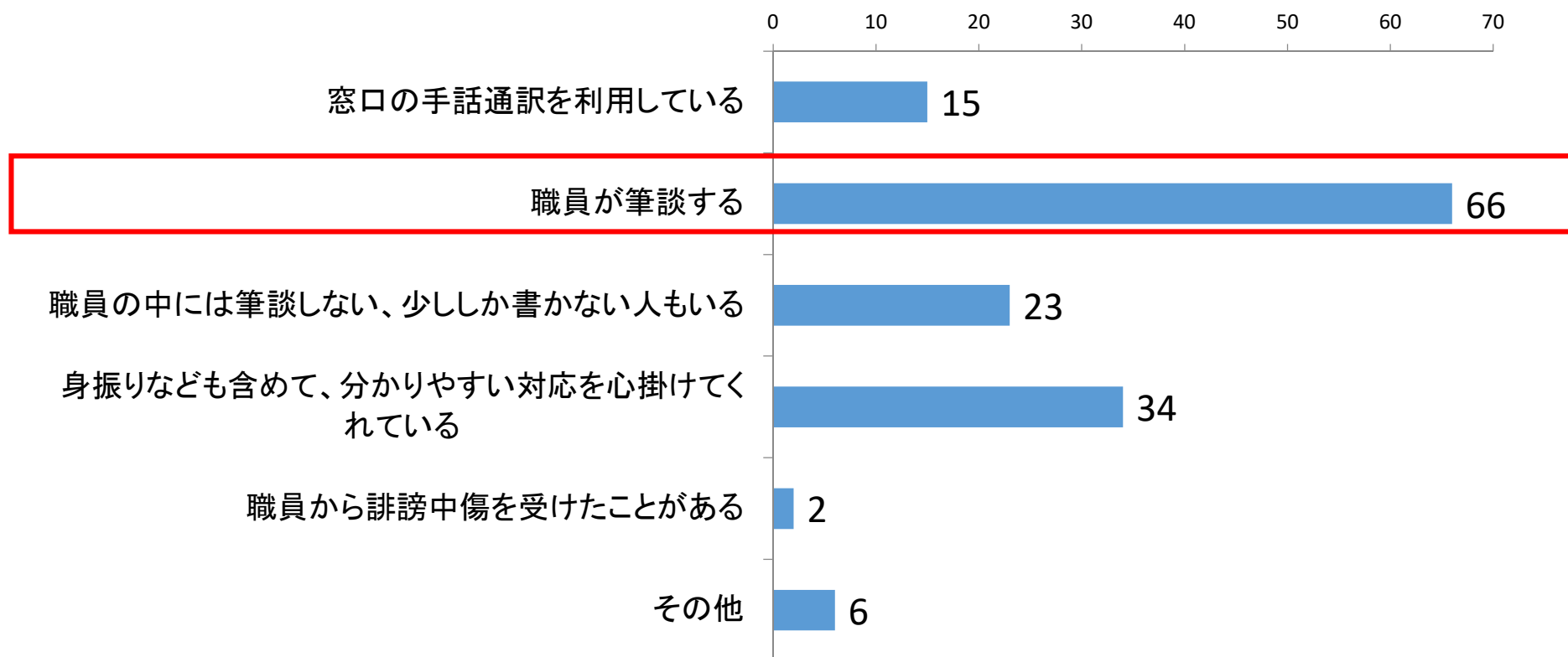


・職場、病院などの医療機関が多い。余暇を楽しむときや、「その他」では、旅行、郵便局や図書館、セミナー参加なども回答があった。

差別・偏見の実例

学校	中学のとき100点とっても通信簿は3。教師から、将来性のある子に5を、君には将来性がないと言われた。
職場	障害者にしてもらおう仕事はないと言われた 就職活動では「電話もできない」と不採用に。 安全管理上片耳では不安と不採用 責任ある仕事は任されない。軽く見られる。同僚とコミがとれない。 筆談拒否、会議出席不要、通訳窓口で、ゆっくり話せば聞こえると勝手に判断された
医療機関	X線検査で、人工内耳をはずした時、指示が伝わらず、医師から「難しい患者」と嫌味を言われた。入院の時、すべて家族に話し、自分には知らされず、家族から聞いた。 個人病院で受付では筆談。医師は「聞こえないなら付き添いと来なさい」と書いた紙を台上にバンと置いた。とても悲しく涙が出た。
旅行・飲食店	聴覚障害者のみの旅行(飛行機)を断られた。 レストランで料理の説明を書いてほしいと言うと無視された。 コンビニのレジで、待ってくださいと言われたのが聞こえなくて、店員さんに怒られにらまれた
自宅	自宅の電話の呼び出しが聞こえず、怒られたり、殴られたことがある
道路	歩道を歩いている時自転車で追いこされ、鳴らしているのに聞こえないのかとどなられた

行政窓口について（複数回答）



・「職員が筆談する」「分かりやすい対応を心掛けてくれる」が多く、配慮が進んでいる様子があるが、「筆談しない、少ししか書かない人もいる」。「その他」には、「筆談依頼したが、長時間口頭で説明され非常に疲れた」「窓口で順番を後回しにされた」という記載もあった。